

農業次世代人材投資資金(旧・青年就農給付金)をこれからも継続いただけることを願います ご自分の体験や意義についての意見をお寄せいただけませんか

吉野隆子 (オーガニックファーマーズ名古屋)

涌井義郎 (NPO 法人あしたを拓く有機農業塾)

藤田正雄 (NPO 法人有機農業参入促進協議会)

農業を担う人は年々激減しています。新規就農者を育てていかなければ、これから農業を担う人は減るばかりです。幸い、農業を志す若者は多く存在していますが、20代～40代で農家ではない家庭から就農する場合、農地も機械も資金も販路もないところから出発するという人が大半です。「農業をしたい」と言っても、資金を借りるのは難しいのが現状です。

そうした若い人たちが「有機農家として就農したい」という思いを実現する際の大きな力となってきたのが、2009年にはじまった青年就農給付金(現在の農業次世代人材投資資金)です。現在は有機農家として独立した人たちから、「青年就農給付金がなければ、就農できなかった」という声を、たくさん聞いてきました。

一方で、この制度を悪用した人も存在したと聞いています。悪い例は目立ちやすいのが常ですが、地道に農業に取り組み成果を挙げ、地域に活力を生み出している新規就農者が、圧倒的に多く存在します。農業を志す人たちにとって、青年就農給付金・農業次世代人材投資資金がとても大きな存在となってきたことは、間違いありません。

2019年度の農業次世代人材投資資金は、大幅に削減されました。この資金を受けながら研修を受けて就農する予定でいた人の多くは受給できず、茫然としています。仕事をやめて準備していた人たちは、はしごを外された思いでいます。

最近になって、追加予算が決定され、今年度は農業次世代人材投資資金を受給できる可能性も出てきましたが、年度はじめの厳しい状況を知り、受給できないものとあきらめて別の道に進んだり、研修を受けずに就農したり、借金をして就農したりという人たちもいます。わずかな期間中に方針が揺れ動くことは、就農をめざしてがんばっている人たちにとって、不安以外の何ものでもありません。

就農を目指す人たちを支える存在として、農業次世代人材投資資金が存続し続けるよう後押しできるのは、その恩恵を受けて就農した方たちの生の言葉です。みなさんの言葉を、この資金に関わる行政の方たちに届けたいと考えています。ご協力いただけないでしょうか。

この資金があったからこそ就農が可能になり、農家として独立就農できたことなどを、ご自分の言葉でつづってください。内容や分量などは、以下のようにお願いできればと思います。

- ・農業次世代人材投資資金(旧・青年就農給付金)があったから、実現できたこと
農業次世代人材投資資金(旧・青年就農給付金)がなかったら、就農を志したか?
などについて、記載してください。研修受け入れ機関からのご意見もお願いします。
- ・別紙のフォーム A4×1枚の範囲で収めていただけるとありがたいです。
- ・送り先

NPO 法人有機農業参入促進協議会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12 偕楽ビル(新末広) 3階 株式会社マルタ内
FAX: 050-3457-8516

Eメール: office@yuki-hajimeru.net (できればメールでお送りください)

11月10日までにお送りください。ご協力をお願いします。